

令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会水球競技 【結果速報】

試合 M07 2回戦

【2025/8/18】

鳥羽 16 $\left[\begin{array}{ccc} 3 & - & 1 \\ 4 & - & 1 \\ 7 & - & 1 \\ 2 & - & 3 \end{array} \right]$ 6 鳥取中央育英

PSO

審判1 坂井奎太

審判2 大坂 淳

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	松村 菊之介	14	3	70%
GK13	吉岡 慎	8	3	40%

No.	Name	被シュート数	失点	セーブ率
GK1	北川 慧祐	30	16	24%
GK13				

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	松村 菊之介			
2	加藤 海湊			
3	園 昊乃輔	4	2	
4	渡邊 陽太	8	6	
5	青木 大虎	7	4	1
6	小島 琥河	2	1	1
7	廣瀬 一綺	2	2	
8	平本 星想	1	1	
9	齋藤 凜音	1		
10	當原 空	1		
11	野々上 遥人	4		1
12	山本 禅人			
GK13	吉岡 慎			

No.	Name	シュート数	得点	PF数
GK1	北川 慧祐			1
2	浜 大翔	1	1	2
3	菅田 海人	8	2	2
4	橋本 大翼	9	3	2
5	橋本 佳樹			
6	伊藤 魁仁	4		
7	塩 涼太郎			
8	勝原 白翔			1
9	小谷 悠人			
10				
11				
12				
GK13				

R7 インハイ水球 Web サイト

<https://j-waterpolo.net/25Yamaguchi/index.html>



令和7年度全国高等学校総合体育大会水泳競技大会
第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）

水球競技戦評

期日：令和7年8月18日（月）

会場：山口きらら博記念公園水泳プール

ゲームNo.

7

帽子の色 白

鳥羽

1 6

3	-	1
4	-	1
7	-	1
2	-	3
PSO		

帽子の色 青

鳥取中央育英

6

審判1：坂井 奎太

審判2：大坂 淳

戦 評

令和7年度全国高等学校総合体育大会 兼 第93回日本高等学校選手権水泳競技大会（水球）、山口県きらら博記念公園水泳プールで行われたゲーム7は、2連覇中の王者・鳥羽高等学校（白帽）と、フレッシュな布陣で挑む鳥取中央育英高等学校（青帽）の対戦となった。大会の中でも注目を集める一戦であり、観客の視線が集まる中で試合が始まった。

第1ピリオドは、実力で勝る鳥羽高校が先手を取る。6分11秒、④渡邊がスピードあるカウンターから先制点を挙げると、3分39秒にはキャプテン③園が冷静にペナルティを決め追加点。さらに⑦廣瀬も速攻から得点し、早くも王者の貴族を示した。しかし、鳥取中央育英も一方的にはならない。2分50秒、④橋本大が鋭い突破から個人技で得点を決め、意地を見せる。スコアは3-1、鳥羽リードで第1ピリオドを終えた。

続く第2ピリオド、鳥羽は攻撃の手を緩めない。開始直後の7分43秒に④渡邊がディフェンスを崩してゴールを決めると、その後も立て続けに加点。⑤青木や⑥小島らも続き、スコアを広げた。対する鳥取中央育英は、③菅田がカウンターからゴールを奪うが、攻めの糸口を見いだせず苦しい展開となる。前半終了時点でスコアは7-2。鳥羽が安定したプレスディフェンスと素早い切り替えから得点を重ね、王者らしい試合運びを披露した。

第3ピリオドに入ると、試合はさらに鳥羽ペースとなる。開始直後に④渡邊が巧みな身のこなしでゴールを決めると、その後も⑤青木や⑦廣瀬らが畳みかける。特に④渡邊はこのピリオドだけで複数得点を記録し、攻撃の中心として圧倒的な存在感を放った。鳥取中央育英も③菅田と④橋本大の連携から一矢を報いるが、全体の流れを変えるには至らない。第3ピリオド終了時点でスコアは14-3と大差がつき、勝負はほぼ決した。

第4ピリオドに入ると、鳥取中央育英が意地を見せる。エース④橋本大が次々とゴールに絡み、居残りや退水から巧みに得点を重ねた。キャプテン②浜もゴールを決め、チームに勢いをもたらす。一方の鳥羽は、④渡邊の働きから⑧平本や③園が得点し、最後まで隙を見せない試合運びを披露。両校が最後まで攻め合う姿勢を見せ、観客を沸かせた。

試合は終始鳥羽が主導権を握り、最終的に快勝。昨年度までの連覇に続き、今大会でも圧倒的な力を見せつけた。特に④渡邊の攻守にわたる働きは群を抜き、得点のみならず退水を誘発する動きでもチームを牽引した。またGK①松村の守備も安定しており、守備面で大きな安心感を与えていた。

一方、敗れた鳥取中央育英は、④橋本大を中心に果敢に攻め込み、最終ピリオドには粘り強い戦いを見せた。3年生が少なく若いチームであるにもかかわらず、最後まで諦めない姿勢は今後につながるものであり、来年度以降の飛躍を予感させた。特に守備面での③菅田の安定感や、②浜のキャプテンシーはチームの土台となっていたことが印象的だった。

総じて、鳥羽高校は積み重ねてきた経験と実力を存分に発揮し、相手を圧倒した。一方で鳥取中央育英は、大差の中でも最後まで粘り強く戦い抜いた姿勢が光った。全国の舞台で得た経験は、次代の成長に繋がる大きな財産となるだろう。王者・鳥羽の強さと挑戦者・鳥取中央育英の可能性が交錯した試合は、多くの観客に水球の魅力を伝えるものとなった。

記 録 者

伊藤・加藤・菅原